

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(社) くすの木会の基本理念に基づいて最後まで「人間らしく生きる」を援助し グループホーム介護理念「入所者も職員も笑顔のある生活」、「パーソンセンタードケアの実践」	○	グループホームの理念を常に意識しながら日々の生活が送れるよう職員は更に努力する。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝、全体の申し送り時に理念を唱和し、毎日の生活援助に実践し、笑顔のある生活を送っています。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族に対しては、年度初めの食事会時(5月)に年間事業計画・活動計画・実績報告を説明し、理解を得るよう取り組んでいる。地域の方々には、「きぬだより」・「いずみだより」を通して理解を頂いています。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	入所者との散歩や買い物に行った際に立ち話をしたり、庭の花や野菜を頂いたり、ホームで作ったものを差し上げたりして、お付き合いさせていただいている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のふれあいの郷でのイベント・神社のお祭り・運動会にでかけ、また、絹保育所と年間を通して交流を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>月1回実施</p> <p>「きぬカフェ」を通して他ノセクションと連携し「認知症教室」、「介護相談」などを開催し、地域の方に参加を呼びかけて参加して頂いている。</p>	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>外部評価の内容を検討し、「今できること」、「今後取り組むべきこと」などを明確にして、改善に取り組んでいる。</p>	
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回、運営委員会を実施し、活動報告・介護保険の動向などを話し合う。委員の方からもこんなことを実施すると良いのではという意見も出て、参考にしている。食事会などにも参加して頂いて、家族の方々との交流を図っている。</p>	
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>解らないことを相談したり、今後のサービスの動向などの情報・意見を頂いたりしながらサービスの質の向上に努めている。</p>	<p>○ 運営推進委員会にも参加して頂けるように声をかけていく。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>必要としている人が入所していないので、特に取り組んではいない。在支のパンフレットを活用するのみ</p>	<p>○ 権利擁護、成年後見人制度に関する研修に参加するように取り組む。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>ISOの品質管理委員会で部門長クラスで勉強会を行い、それぞれの部門での会議で研修会を行っている。</p>	<p>○ グループホーム会議時に「高齢者虐待とは」について勉強会を行う。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時においては、項目ひとつひとつ読み上げてお互いに確認しあい、不明なところは質問して頂き納得して頂くように説明する。 契約後も不明な点については、いつでも対応している。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見は、常に日々の援助の中で聞いて実践している。 不満・苦情は、馴染みの関係を築くことによって利用者の話しやすい職員が聞いて、他の職員とも共有し、改善に取り組んでいる。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年4回の食事会、面会時などを通じて報告を行っている。暮らしぶりは、写真に残し、ファイルし、日々の変化がわかるようにしている。 健康状態に関してはその都度報告、職員の異動については面会・食事会時に報告している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	I S Oで年1回ご家族様アンケートを実施。結果を分析して、「きぬだより」にて外部・家族に公表し、運営に反映し改善していく体制で取り組んでいる。	○	家族にアンケートの分析を報告し今後どんな取り組みをすれば満足して頂けるか意見を聞く機会を設ける。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送り時、会議・日々の会話の中から意見や提案を聞き、日々の援助に反映している。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事に対しては、必要とする人員を配置している。緊急時にもすぐに勤務交代できる職員は確保している。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の離・異動がほとんどなく、馴染みの関係が築かれているので、利用者の方も安心した生活を送っている。</p>	○	<p>馴染みの関係が強くなりマンネリ化しない工夫が必要</p>
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>ISOで年4回、施設内で全体職員研修会を実施し、職員のレベルアップを図っている。(外部講師依頼) 活動計画の中に年間を通して研修を入れて、自分たちで自己啓発に努めている。</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>認知症介護実践研修の指導を通し他の施設職員との交流ができ、参考になる事を職員に伝えている。施設見学、実習生受け入れを積極的に行っている。意見交換などを行い、常にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>くすの木会全体の親睦食事会(年5回)を開催し、日頃交流の少ないセクションの職員と話す機会を設けて、交流が図れるように取り組んでいる。</p>		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>力量評価シートを参考にしながら、一人ひとりの現状を把握して、モチベーションを下げないように働きかけている。</p>	○	<p>評価点数の低い項目を重点的に研修し皆が同じレベルになるようにしていく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	申し込み時には家族に話を伺い、入所前面接時は今一番気になっている事・困っている事を直接本人・家族に伺うようにしている。 入所後も常に関わりを持ちながら日々の様子を観察し、本人の思いを聞くように努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所申込時に、担当ケアマネジャーより情報入手、本人の様子を伺う。入所面接は、ケアマネジャーと介護職員で行う。在宅での様子・居宅サービスでの様子などを細かく聞き取る。入所しても本人に不安にならないように、本人が使用したいものを持参して頂き、馴染みの空間で生活して頂く。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の求めていることを優先して援助していく。 本人に不安を与えないために、他のサービスを利用しながら援助することは考えていない。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所ホームなので、その日からサービスを開始している。 入所、間もない時には、本人も不安になってしまうので関わりを多く持って、その場の雰囲気に慣れて頂くように工夫している。 他の入所者にも関わりを持って頂き、一日でも早くホームの生活に慣れて頂くようにする。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	野菜作り・庭の草花の手入れ・家事など、今まで本人が行ってきたことを通して共に実践している。 様々な所にてかけ、歴史やその時の暮らしなどを聞き、今昔を共有し、お互いに支えあいながら生活している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	年4回の食事会・面会・サービス担当者会議を通じて、日々の暮らしを支え、喜びを共にしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入所したからといって家族関係が疎遠にならないように、面会・外出など関わりを多く持って頂けるように心がけている。本人の状態なども常に報告するようにし、関心を持って頂くように支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の活動には必ず参加し、昔馴染みの人との交流を深めている。 美術館・公園・映画館などに出かけ、昔見たもの・聞いたものに触れ合う機会をもつように支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努め、レクなどを通して仲間意識が生まれるように心がけている。	仲よし同志の仲間が数人いる。お互い意志の疎通がうまくいかずに、言い争いもありますが、認知症なのですぐ忘れてしまうのか、何もなかつたかのように話しをしている。出来る人が出来ない人を手助けする光景もみられるのでお互いを尊重し支えあい、生活している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約を終了した家族ともその後も家族との関係を保つために行事・食事会などにお誘いし、ホームに来苑して頂く機会を設けて交流を図っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人がある程度理解力のある方に対しては、希望を伺って、本人の意志にまかせて実施している 困難な方には、家族の意向を伺い・職員の思いを伝えながら今できる事を援助している。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を利用しながら、生活歴などの把握に努めている。 担当ケアマネより情報を頂いて、いままでの生活を知るように努めている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ケアプランを通して、一人ひとりのニーズに合わせた生活を援助している。 自分のできることは、時間がかかっても自分で行うよう常に見守りし、行えるよう努めている。	○ 本人の意思を尊重して日々の生活を支援していく
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の生活の中で一人ひとりの課題となるものを抽出し、本人・家族の要望などを伺ってサービス計画書に反映している。 利用者の思いを優先している。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	認定期間での計画作成を行っているが、状態変化がある時にはサービス担当者会議を開き、その都度、計画書の見直しができるようにしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護計画記録を活動記録に分けて記入しているので、職員間での情報共有ができています。5分ミーティングノートの活用により日々の様子を把握し、見直しの検討ができる。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の意志決定を尊重している。要望に対して、即対応できる体制がある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の活動に常に参加し、GHの活動を理解して頂いている。防災訓練などを通して、消防との関わりを持ち、認知症を理解して頂くよう努力している。小中学性の来苑があり、演奏会・触れ合いなどを行い、支援している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	同法人の居宅との連携は取れているが、他の事業所とは入所者の申し込みや情報提供の関わりのみとなっている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとは運営推進委員会、入所の申し込みなど関わりは大きい。合同で「認知症について」の会の開催を考えている。	○	今後、権利擁護については、包括支援センターの職員に依頼勉強会を実施して行く。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(社) くすの木会の嘱託医と連携を図りながら、常に健康管理に心がけている。専門外の時には協力病院に受診している。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	嘱託医に相談している。認知症の症状によって、専門医の受診ができるように関わりを持っている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(社) くすの木会の看護職と連携を取り、いつでも相談できるような体制を整えている。時々様子をみて頂いている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	担当医・家族との連携を図り、早期退院し、ホームに戻ってこれるように援助していく。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(社) くすの木会全体でターミナルケアマニュアルを作成し、手順に従って実施できるような体制を作っている。家族の意向をしっかりと聞き、かかりつけ医・職員・三者協議を行い方針を決めている。	○	入所の方がいつからターミナルケアなのか分からないのが現状なので、今後ターミナルについて研修を実施していく。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	日々の健康管理に努め、重度化にならないように配慮している。変化がある時には、かかりつけ医と連携して素早く対応していく体制がある。終末期ケアは、家族の同意のもとに支援していく。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	医療重視以外は、住み替えることなく最後まで支援できるように共に力を合わせて努力したい。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりに対して解かり易い言葉がけをするように心がけている。(方言など) 本人のいやがるような話題は、提供しない。 記録は、個人ごとにファイルし、保管している。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	一人ひとりの、その日その日の能力を見極めて対応し、選択肢を多くし、自己決定を尊重し、日々の暮らしを援助している。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員主体の援助ではなく、一人ひとりのペースを大切にし、自分のやりたい事を思い思いにできるような体制を取り、一日を過ごせるように実践している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	馴染みの美容室に行く方もいれば、来苑して下さる美容師さんに好みを話して髪を切っています。衣類も季節に合わせて新しいものを家族に用意して頂き、自分で組み合わせをして、おしゃれを楽しんでいます。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時には、おこづかいを本人に渡し、好きなものを買うなどしている。 小銭は、自分で管理している人もいる。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には、毎日散歩にでかける。(一人ひとりに合わせた歩きかたで) 食材の買い物に行く時には、声かけし、一緒にでかけて、希望の食べたいものを購入してくる。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	テレビ・雑誌などで旅行案内を見て、皆で話し合っ、行ってみたい所を聞いて、出かけられるようにしている。 また、年間行事の中にも計画を立てて外出を楽しんでいる。	○	以前は旅行に家族も参加して頂いていましたが最近では出掛ける事がなくなっているので一緒に出掛ける機会を作る。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話や本人からの要望時には、対応する。 紙手紙を出して、手紙のやりとりなどを行って、家族の方にも喜ばれている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いろいろな方が出入りして下さっているの、馴染みの関係は保たれている。 一緒にお茶を飲んだり食事をしたりして楽しい時間を過ごして頂いている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(社)くすの木会で身体拘束防止マニュアルを作成し、日々のケアに取り組んでいる。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	いつでも自由に入出りできる体制をとっている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に、見守りを行って、職員間で声かけをし安全確認を実施している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	物品の保管・管理は、種類によって異なった対応に心がけている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットを記入している。内服薬などは、必ず一人ひとり名前を記入し、間違えのないように確認し、服用している。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	蘇生法など勉強会・訓練を消防署立ち合いで実施しているが、全員がすぐ対応できるかは不安である。	○	常に対応出来るように定期的に訓練を実施していく。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災訓練は、日中・夜間を想定し、実施している。災害に対しては、炊き出し訓練を行ったり、非常食品も準備し、毎月チェックし、備えている。地域の方々には、くすの木会全体で協力が得られるように連携を図っている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入所時に必ず説明を行っている。「安全か自由か」といった時に自由を優先し、職員の意識の向上を図る。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々一人ひとりの様子観察を行い変化がみられる時には即対応でき、記録にも一日一日の状態が記録されているので早期発見する事が出来る。変化のある時には、主治医・家族に連絡し、素早く対応できるように連絡網などを作成しておく。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬表を作成し、薬名と副作用を理解し、対応できるようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事摂取を優先している。水分も多く取るように心がけている。 便秘の人には、乳製品・植物繊維質などを多く摂取するように心がけている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアを実施している。自分でできない人には、全介助で行っている。 舌苔の汚れのひどい人に対しては、入浴時に口腔ケアを行う。	○	定期的に歯科受診を検討して行く。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日1500cc位を目安に水分補給をしている。好き嫌いのある時には、代替で提供しているので栄養摂取は確保されている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症予防マニュアルがあり、ISOで勉強会したものを各部門で再度研修するようになっている。インフルエンザは、予防接種を全員が行う。ノロウイルス対策は、グッズを一式備え即対応できる。年間を通して掃除のときには、次亜塩素酸を使用している。常に手洗い・うがいの励行を実施している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒の予防として、手洗いは必ず行う。調理用具は、必要に応じて熱湯で消毒して使用している。食材は、あまり買い置きはせず、常に新鮮なものを使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	季節に合わせて草花を植え、家庭と同じような雰囲気作りに努めている。表札も郵便受けの所のみ貼るなどして施設らしさを感じさせないようにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には必ず植木鉢を置き、ほっとする空間を作る。共用空間には明るい陽射が入り、快適な生活が送れるようにしている。トイレには冷暖房がついているので、温度差がある時には、すぐ対応することが可能。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子を数ヶ所に配置し、目隠しになる部分があり、一人ひとりが思い思いの場所でくつろげるように工夫している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

認知症であっても特別に接するのではなく、あたりまえの生活をするにこだわり、積極的に外に出かけて、出会った皆さんとの触れ合いを大切に日々生活しています。(地域の行事、温泉一泊旅行、美術館、歴史博物館、ディズニーランド、映画館、ドライブなどに出かける) ほぼ毎月「絹保育所」の先生・園児との交流を図って、園児達から元気・パワーを頂いています。グループホームをより知っていただくように、地域全戸(約1,430戸)に「いずみだより」を回覧させて頂き、日々の生活の様子などを紹介させて頂いております。入所者一人ひとりが「今日は楽しかった」と言って頂けるように接していきたいと思っております。一人ひとりの出来る事・出来ない事を常に見極めながら援助し、楽しい日々を過ごして頂きたいと願っております。